

報道機関 各位

東北大学東北アジア研究センター
指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点災害人文学ユニット

**「ドキュメンタリー映画
『赤浜ロックンロール』を観る」
東日本大震災以後のドキュメンタリー映画から
地域社会・地域文化を考える公開研究会**

東日本大震災では発生直後より多くの映像記録が残されてきました。被災状況や体験者の証言、被災地域の伝統行事や民俗芸能の記録などドキュメンタリー映画として作品化・上映されたものだけでも数百タイトルを数えます。東北アジア研究センター災害人文学ユニットでは、東日本大震災にまつわるドキュメンタリー映画の上映・鑑賞と、映画監督ら製作者や、研究者を交えた意見交換を通して、地域文化と地域社会の存続に関して映像記録の担う役割と可能性を考えます。

今回の上映作品『赤浜ロックンロール』は、東日本大震災による大津波と火災が甚大な被害をもたらした岩手県大槌町の赤浜で、巨大防潮堤建設に反対の声をあげた住民の活動に密着したドキュメンタリー映画です。漁撈を生業としてきた赤浜の人たちにとって、巨大防潮堤により海岸線が囲われる復興計画は賛同しがたいものでした。

本作の上映とともに、監督の小西晴子氏、本学大学院文学研究科博士課程後期課程で災害社会学・地域社会学を専攻する坂口奈央氏を迎え、東日本大震災直後から現在までの大槌町の変化を情報共有するとともに、地域住民の意思と行動の発信にドキュメンタリー映画が果たす役割について意見交換を行います。

なお本企画は、指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点事業の一環として行われます。

【問い合わせ先】

東北大学東北アジア研究センター
災害人文学ユニット

担当： 是恒（これつね）、福田

電話： 022-795-3842

E-mail: saigaijinbungaku@gmail.com

災害人文学研究会 2018年度第6回研究会
「ドキュメンタリー映画『赤浜ロックンロール』を観る」

上映作品 『赤浜ロックンロール』

弁天様を祀る蓬莱島（ひょっこりひょうたん島のモデルの島）が浮かぶ町、岩手県大槌の赤浜で生まれたロックを愛する漁師・阿部力（つとむ）は「漁師は水揚げしてなんぼ」と、海で体をはってきた。2011年、東日本を襲った大震災で、町を「土色の壁のような波」が襲った。最大22mの津波と火災により、死者・不明者1280余人、町の85%が喪失した。半年後、国と県は、5階建てビルと同じ、14.5mの高さの巨大防潮堤で海岸線を囲う復興計画を決める。「海が見えねえじゃねえか！」そんな中、赤浜の住民は巨大防潮堤に反対の声をあげる。「人間が作ったものは壊れる」津波で家族を亡くした“赤浜の復興を考える会”会長の川口博美は国の提案を拒否。「自然をないがしろにして復興はない」と

阿部は、手間ひまかけて育てたワカメ、昆布、ホヤ、牡蠣を、消費者に届けることに心血を注ぐ。自然を抑え込む発想とは違う共に歩む知恵。ここに、わたしたちの進むべき未来もある。

（公式ウェブサイト <http://u-picc.com/akahama_rocknroll/> より）



プログラム

第一部 映画上映会 18:15～19:50

第二部 意見交換会 20:00～20:30

[登壇] 登壇者：小西晴子氏（『赤浜ロックンロール』監督）
坂口奈央氏（東北大学大学院文学研究科
社会学研究室博士後期課程）

日時 2018年12月4日（火）18:15～20:30

場所 東北大学川内北キャンパス講義棟B棟101室
（宮城県仙台市青葉区川内41）

入場料 無料 参加申し込み 不要

指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点東北大学東北アジア研究センター
災害人文学ユニット：<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/unit/disaster/>